



2021年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年11月8日

上場会社名 株式会社ミズホメディー 上場取引所 東
 コード番号 4595 URL <https://www.mizuho-m.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 唐川 文成
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長兼総務部担当 (氏名) 佐々木 寛 (TEL) 0942-85-0303
 四半期報告書提出予定日 2021年11月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年12月期第3四半期の業績 (2021年1月1日~2021年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第3四半期	10,576	324.5	5,669	—	5,670	—	4,081	—
2020年12月期第3四半期	2,491	△39.7	△239	—	△240	—	△172	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2021年12月期第3四半期	428.51		—					
2020年12月期第3四半期	△18.07		—					

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年12月期第3四半期	11,158	7,293	65.4
2020年12月期	6,051	3,783	62.5

(参考) 自己資本 2021年12月期第3四半期 7,293百万円 2020年12月期 3,783百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2021年12月期	—	50.00	—	—	—
2021年12月期(予想)	—	—	—	95.00	145.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正につきましては、本日(2021年11月8日)公表いたしました「通期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

3. 2021年12月期の業績予想 (2021年1月1日~2021年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,062	210.6	6,362	—	6,364	—	4,588	—	481.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想の修正につきましては、本日(2021年11月8日)公表いたしました「通期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2021年12月期3Q	9,525,600株	2020年12月期	9,525,600株
-------------	------------	-----------	------------

② 期末自己株式数

2021年12月期3Q	1,130株	2020年12月期	1,018株
-------------	--------	-----------	--------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2021年12月期3Q	9,524,497株	2020年12月期3Q	9,524,582株
-------------	------------	-------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間(2021年1月1日～2021年9月30日)におけるわが国経済は、繰り返す新型コロナウイルス感染症の再拡大により国民生活や企業活動も大きな影響を受け続けました。夏場の第5波は、感染力が強い変異株により過去最大の波となりましたが、ワクチン接種が幅広い年代へ普及するなか、急速に収束に向かい、社会経済活動の正常化が段階的に進むことが期待される状況となっております。しかしながら、冬場にかけて第6波の到来が懸念されるなど、依然として先行きは不透明な状況で推移しております。

体外診断用医薬品業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、新型コロナウイルスの遺伝子検査や抗原検査等の検査需要は急激に高まる一方で、インフルエンザウイルスをはじめとした既存の感染症は、新型コロナウイルス感染症に対する感染予防の効果や受診控え等により、検査需要が減少するという影響を受けました。当第3四半期累計期間におきましては、それらの影響から徐々に脱しつつあるものの、新型コロナウイルス感染症は変異株による再拡大を繰り返すなど、その影響は継続しております。今後の既存の感染症全般の検査需要の見通しにつきましては、ワクチン接種が幅広い年代へ一定程度普及した状況において、第5波の次の第6波がどの程度の規模になるのか、そこで終息への兆しが見えるのかどうかを注視する必要があります。

このようななか、当社は、「全自動遺伝子解析装置 Smart Gene」の累計販売台数が増加するなか、感染急拡大により需要が急増した「スマートジーン SARS-CoV-2」の安定供給に尽力いたしました。また、2021年3月より、高感度感染症迅速診断システム「クイックチェイサー Immuno Reader シリーズ」の専用試薬として、新型コロナウイルス抗原キット「クイックチェイサー Auto SARS-CoV-2」の発売を開始いたしました。さらに、同年4月より、クイックチェイサーシリーズの専用機器として検査結果を自動で判定できるデンシトメトリー分析装置「スマートQCリーダー」の発売を開始いたしました。

このような環境下におきまして、当第3四半期累計期間の売上高は105億76百万円(前年同期比324.5%増)となりました。

当社は、体外診断用医薬品事業の単一セグメントであります。市場分野別の売上高は、以下のとおりであります。

病院・開業医分野におきましては、2020/2021シーズンのインフルエンザの流行は、新型コロナウイルスへの感染予防対策や渡航制限による海外との人的交流の減少が、インフルエンザの感染拡大防止にも奏功したといわれており、海外の状況と同様に異例の低水準となりました。この影響により、インフルエンザ検査薬全体の売上高は、1億32百万円(前年同期は6億15百万円)と大幅な減収となりました。

新型コロナウイルス検査薬(遺伝子検査及び抗原検査)につきましては、「全自動遺伝子解析装置 Smart Gene」の年初からの出荷再開に伴い累計販売台数が増加するなか、「スマートジーン SARS-CoV-2」は、感染拡大の波の影響も受けながら、約99万テスト(第1四半期 18万テスト、第2四半期 40万テスト、第3四半期 41万テスト)を出荷しました。また、3月より発売開始した新型コロナウイルス抗原キットも堅調に推移し、新型コロナウイルス検査薬全体の売上高は、79億79百万円(前年同期は2億49百万円)となりました。

その他感染症項目の検査薬につきましては、第1四半期においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が残りましたが、第2四半期以降の売上高は全般的に前年同期を上回る結果となりました。特に、RSウイルスの季節外れの大流行により、RSウイルス検査薬及びRSウイルス/ヒトメタニューモウイルス検査薬の売上高は大幅に増加しました。一方、「全自動遺伝子解析装置 Smart Gene」につきましては、世界的な半導体不足の影響を受け、出荷は滞っているものの、第2四半期までに約3,000台を販売し、累計販売台数は約4,000台となっております。これらの結果、その他感染症項目の検査薬を含むその他の検査薬及び機器全体の売上高は、21億53百万円(前年同期比61.1%増)となりました。

以上により、病院・開業医分野全体の売上高は、102億64百万円(前年同期比366.1%増)となりました。

OTC・その他分野におきましては、妊娠検査薬及び排卵日検査薬は、主に新型コロナウイルス感染症の影響が低減したこと等により、OTC・その他分野全体の売上高は、3億11百万円(前年同期比7.8%増)となりました。

利益面につきましては、遺伝子POCTをはじめとした新製品に係る研究開発費の増加、インフルエンザ検査薬に係るたな卸資産評価損及び返品調整引当金繰入額を計上したものの、主に「スマートジーン SARS-CoV-2」の大幅な増収に伴う売上総利益の増加により、営業利益は56億69百万円（前年同期は営業損失2億39百万円）、経常利益は56億70百万円（前年同期は経常損失2億40百万円）となりました。なお、新型コロナウイルス感染症対策の一環として公募され、感染症検査キット等生産設備の導入支援として交付された補助金収入等1億24百万円を特別利益に計上しております。この結果、四半期純利益は40億81百万円（前年同期は四半期純損失1億72百万円）となりました。

インフルエンザ検査薬は、過去7年ほどにわたり、当社の売上高の約50%を占める主力製品でありました。しかし、2019年末に発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、インフルエンザの流行規模は著しく低い水準に抑えられ、2020年第1四半期よりインフルエンザ検査薬の売上高は大幅に減少しております。

一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、遺伝子検査の需要が急激に高まるなか、2020年第3四半期より発売を開始した「スマートジーン新型コロナウイルス検出試薬（現 スマートジーン SARS-CoV-2）」の売上高が急激に増加しております。結果として、インフルエンザ検査薬への依存度が低下し、新型コロナウイルス検査薬への依存度が高まる状況となっております。新型コロナウイルス検査薬は、今後の感染拡大の動向、政府・自治体等による感染拡大防止策、あるいは医療・検査体制の変化などの外的要因によって、本検査薬の需要が大きく左右される可能性があります。

当事業年度（第45期）の四半期会計期間ごとの売上高及び営業利益は、以下のとおりであります。

第45期（2021年12月期）の四半期会計期間ごとの売上高及び営業利益

（単位：百万円）

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第45期 合計
売上高	2,443	3,910	4,222	—	10,576
内 インフルエンザ検査薬(注)3	38	37	56	—	132
内 新型コロナウイルス検査薬	1,557	3,118	3,303	—	7,979
営業利益	877	2,246	2,544	—	5,669

（ご参考）直近2事業年度の四半期会計期間ごとの売上高及び営業利益又は営業損失
第44期（2020年12月期）

（単位：百万円）

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第44期 合計
売上高	1,052	610	828	1,714	4,205
内 インフルエンザ検査薬	420	165	30	134	750
内 新型コロナウイルス検査薬	—	—	249	1,020	1,270
営業利益又は営業損失(△)	△1	△127	△109	655	416

第43期（2019年12月期）

（単位：百万円）

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第43期 合計
売上高	1,816	1,030	1,282	2,297	6,427
内 インフルエンザ検査薬	1,169	172	409	1,444	3,196
営業利益	382	52	95	580	1,111

- (注) 1. インフルエンザ検査薬には、「クイックチェイサー Flu A,B」、「クイックチェイサー Auto Flu A,B」及び富士フイルム株式会社向け機器試薬システムの試薬が含まれております。
2. 新型コロナウイルス検査薬には、「スマートジーン新型コロナウイルス検出試薬（現 スマートジーン SARS-CoV-2）」、「クイックチェイサー Auto SARS-CoV-2」及び富士フイルム株式会社向け機器試薬システムの試薬が含まれております。
3. 当期返品分を除いた金額を記載しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末に比べ51億6百万円増加し、111億58百万円となりました。これは主に、たな卸資産の減少2億1百万円があったものの、現金及び預金の増加24億45百万円、売掛金の増加23億99百万円、電子記録債権の増加3億84百万円及び固定資産の投資その他の資産に含まれている繰延税金資産の増加1億52百万円があったことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末に比べ15億97百万円増加し、38億65百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少3億73百万円及び短期借入金の減少2億19百万円があったものの、未払法人税等の増加17億91百万円、流動負債のその他に含まれている未払消費税等の増加1億22百万円及び電子記録債務の増加1億4百万円があったことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末に比べ35億9百万円増加し、72億93百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加35億9百万円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期累計期間の実績及び最近の動向を踏まえ、2021年8月10日に公表いたしました2021年12月期通期の業績予想及び配当予想を修正しております。詳細につきましては、本日(2021年11月8日)別途公表いたしました「通期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	54,312	2,500,155
売掛金	1,885,801	4,285,234
電子記録債権	157,549	542,337
商品及び製品	817,894	407,342
仕掛品	244,185	353,698
原材料	393,040	493,058
その他	94,192	41,964
貸倒引当金	△884	△1,974
流動資産合計	3,646,091	8,621,817
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	965,547	934,095
土地	749,151	749,151
その他（純額）	413,006	421,549
有形固定資産合計	2,127,705	2,104,796
無形固定資産	12,415	13,246
投資その他の資産	265,545	418,801
固定資産合計	2,405,666	2,536,844
資産合計	6,051,757	11,158,662

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	214,590	242,610
電子記録債務	85,227	190,073
短期借入金	219,992	—
未払法人税等	105,911	1,897,258
賞与引当金	29,791	90,488
返品調整引当金	4,289	5,481
その他	464,270	619,841
流動負債合計	1,124,071	3,045,753
固定負債		
長期借入金	373,352	—
退職給付引当金	252,189	254,707
役員退職慰労引当金	518,509	565,018
固定負債合計	1,144,050	819,726
負債合計	2,268,122	3,865,479
純資産の部		
株主資本		
資本金	464,548	464,548
資本剰余金	274,548	274,548
利益剰余金	3,045,817	6,555,668
自己株式	△1,548	△1,841
株主資本合計	3,783,365	7,292,923
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	269	258
評価・換算差額等合計	269	258
純資産合計	3,783,635	7,293,182
負債純資産合計	6,051,757	11,158,662

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自2021年1月1日 至2021年9月30日)
売上高	2,491,201	10,576,129
売上原価	1,003,011	2,516,814
売上総利益	1,488,190	8,059,315
返品調整引当金戻入額	1,346	—
返品調整引当金繰入額	—	240,573
差引売上総利益	1,489,536	7,818,741
販売費及び一般管理費	1,728,750	2,149,731
営業利益又は営業損失(△)	△239,214	5,669,010
営業外収益		
受取利息及び配当金	17	1,754
受取手数料	161	154
生命保険配当金	434	462
為替差益	—	369
受取補償金	—	1,795
その他	564	246
営業外収益合計	1,178	4,781
営業外費用		
支払利息	1,607	1,242
為替差損	412	—
支払手数料	—	1,675
営業外費用合計	2,019	2,918
経常利益又は経常損失(△)	△240,055	5,670,874
特別利益		
補助金収入	—	124,029
特別利益合計	—	124,029
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△240,055	5,794,904
法人税、住民税及び事業税	1,439	1,865,757
法人税等調整額	△69,364	△152,173
法人税等合計	△67,925	1,713,584
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△172,130	4,081,320

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当第3四半期累計期間において、四半期純利益40億81百万円を計上しております。この結果、当第3四半期累計期間において利益剰余金が35億9百万円増加し、当第3四半期会計期間末において利益剰余金が65億55百万円となっております。

(セグメント情報等)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の拡大による影響に関する会計上の見積りについて)

前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の拡大や終息時期等を含む仮定について重要な変更はありません。